

記念シンポジウムが開催されました

去る2007年11月19日(月)に、石垣市健康福祉センターにて、「石西礁湖自然再生全体構想策定／石垣島の国立公園編入記念シンポジウム「島・海・サンゴ礁 ―石西礁湖自然再生と国立公園―」を開催しました。

シンポジウムは、以下の3部構成で進められました。

【第1部】石西礁湖自然再生全体構想、
石垣島の国立公園編入の紹介

【第2部】トークショー「八重山の自然のすばらしさについて」
(さかなクン、♪鳥くん、琉球サンゴくん)

【第3部】パネルディスカッション「サンゴ礁の保全」

当日は約300名もの参加者にご来場いただき、子供からお年寄りまで多くの方が熱心に聞き入っていました。

シンポジウムの参加者から、石西礁湖の自然再生について次のようなご意見・ご感想をいただきました。

このようなイベントをもっと行ってほしい。
数値的根拠と数値目標を示してほしい。
子供・学生に対して教育・啓発が必要だと思う。
地域住民への認知度を高める必要がある。
地域の人々との意見交換も大切だと感じた。
自分の出来ることを考え実行していきたい。

今後も、このような声に耳を傾けながら、石西礁湖における自然再生を推進すべく、実施計画の作成や自然再生事業の実施に取り組んでいく必要があります。

※協議会、シンポジウムの資料や議事録は、ホームページでご覧になれます(<http://shizensaisei.com/>)

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279

【E-mail】okironc@coremoc.go.jp 【自然再生ホームページ】<http://shizensaisei.com/>

石西 自然再生 礁湖

石西礁湖自然再生 ニュースレター 2008.1

6

島人の宝 豊かな海を 守る

第6回 石西礁湖自然再生協議会が開催されました

自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」が平成18年2月に設置され、石西礁湖の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すための取り組みが進められています。

今回のニュースレターでは、第6回協議会の様子をご紹介します。

石西礁湖(せきせいしょうこ)の自然再生を目指す「石西礁湖自然再生協議会」の第6回協議会が、平成19年12月15日(土)に石垣市で開催されました。

今回の協議会では、シンポジウムや生活・利用に関する検討部会、2007年のサンゴ白化についての報告の他、国際サンゴ礁年についての説明がありました。

また、「石西礁湖自然再生全体構想」が策定されたことより、次の段階である「自然再生事業実施計画」について、内容及び留意事項の説明や各地の協議会における事例紹介がありました。

その後、自然再生事業の実施に向けた委員の意見交換として、「陸域対策」、「普及啓発」、「資金メカニズム」の3つのテーマに分かれてグループディスカッションを行いました。

今回のニュースレターでは、グループディスカッションの様子を中心にご紹介します。



グループディスカッションの様子

Group Discussion

石西礁湖自然再生事業の実施に向けて」 ～グループディスカッション～

今回の協議会では、自然再生事業の実施に向けたテーマ別のグループディスカッションを行いました。テーマは、「陸域対策」、「普及啓発」、「資金メカニズム」の3つで、それぞれのグループに座長がつき、ディスカッションを進めていきました。

およそ1時間にわたるディスカッションでは、多くの意見・提案が出され、今後も継続して議論する必要があるとの結論に達しました。また、そのためには、必要に応じてメーリングリストを通じた情報交換を行うことや、キーパーソンの集団を作り、自然再生事業のテーマに応じて集まれるようなネットワーク作りが必要ではないかという意見も出されました。

①陸域対策(赤土・生活排水等の流入対策)

座長:大見謝辰男(沖縄県八重山支庁八重山福祉保健所 生活環境班長)

開発地からの赤土流出問題は、沖縄県赤土等流出防止条例が施行され、以前に比べ流出は低減された。そのため、相対的に農地からの赤土流出がクローズアップされた。解決にあたっては、土地改良事業等のハード面と営農対策等のソフト面からの対応が必要である。

水質問題は、水洗化率の低迷ため生活雑排水の垂れ流しが問題となっており、畜舎排水は法律により排水対策が求められているが、排水対策の施設が台風等で壊され、汚水が流出している。

化学物質は、現時点ではサンゴが白化するような濃度とはなっていない。



②普及啓発(サンゴ礁保全の意識向上・広報啓発)

座長:瀧岡和夫(東京工業大学大学院情報理工学研究所 教授)

観光が盛んな現状を踏まえ、観光客を相手にしているダイビングショップ等も対象にする必要がある。業者には、サンゴに対する理解のレベル差があるため、対策の1つとして認定制度を設けてはどうかといった提案もあった。

普及については、協議会のメンバーが主体的に実施していくが、その際にはICRI(国際サンゴ礁イニシアティブ)やサンゴ礁学会等との連携が必要という意見があった。

また、ロゴマークを作成し販売してみてもいいといった議論もなされた。



③資金メカニズム

座長:恵 小百合(美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会)

資金には、行政が出せるものと民間が出せるものがあり、民間の資金は行政では対応が難しいところでの活用ができるという特長がある。

資金調達に際しては、①人口と出口(使途を含む)を明確にする、②他の基金との競合を避ける、③事業を金利で運営する際は継続的に調達できる手段を検討する、④事務局、会計、管理義務は誰が行うか検討するといった課題がある。

①については、協議会規約第16条の「寄付金を得ることができる」との規定を根拠に、石西礁湖自然再生協議会として入口を一本化し、対応していく必要がある。



石西礁湖は いま

シリーズ⑥

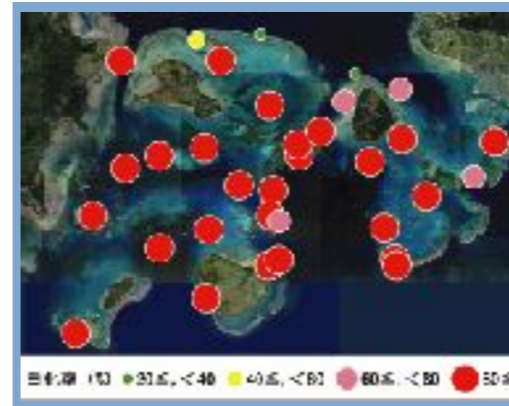
石西礁湖を含む八重山周辺海域では、世界的規模でサンゴの白化が確認された1998年以降、白化の起こる頻度が増加しています。サンゴの白化現象については、本ニュースレターvol. 3でもご紹介しましたが、今回は、2007年夏期に石西礁湖でみられたサンゴの白化状況についてご報告します。

まず、サンゴへのストレス要因の一つである水温変化をみると、八重山周辺海域の夏期の日平均水温は、特に7月下旬から8月上旬にかけて、平年値よりも1℃以上

上海水温の高い状態が続いていたことがわかりました。また、浅く閉鎖的な礁池内など比較的海水の交換が悪い場所では、平均水温がより高くなる傾向がみられました。

この水温の動向と同調するように、7月中旬以降、サンゴの白化情報が多数寄せられ、9月上旬に石西礁湖で緊急白化調査を実施したところ、全体的に白化率(地点毎に確認した全てのサンゴ(100%)から、正常なサンゴの割合を引いた値)が極めて高く、調査した全33地点のうち、26地点で白化率が80%を超えていることがわかりました(図1)。また、その後に実施した追跡調査の結果から、白化の影響で死亡したと思われるサンゴは、低く見積もっても30%以上の結果が得られています。特に、石西礁湖を代表するサンゴ種で、白化の影響を受けやすいといわれているミドリイシ類の死亡率が高くなっています。

残念ながら現段階では、高水温によるサンゴの白化を防ぐ有効な対策はみつかっていません。まずは私たち一人一人が、白化で弱ったサンゴの回復を見守りながら、赤土や家庭排水などの流出を軽減していくことによって、さらなるストレスを与えないよう心がけることが大切ではないでしょうか。



スノーケリングで海面を15分間遊泳し、下記の4段階に分けて、その割合を記録。

- ①正常なサンゴ
- ②色が少し薄いサンゴ
- ③完全に白化したサンゴ
- ④白化により死亡したサンゴ

「白化率」とは、4段階の合計を100%とし、「正常なサンゴ」の割合を引いたもの。

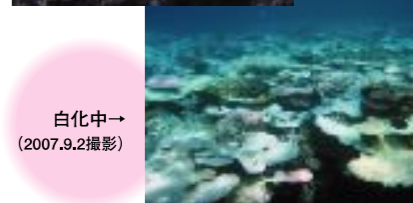


写真1.新城島・下地南礁池のサンゴ群集

Gallery

石西礁湖ギャラリー



今回は、環境省による富野小学校の子どもパークレンジャー事業についてご紹介します。「コーラルウォッチ」のサンゴ色見本カードを使って、サンゴの健康度(白化度合)をチェックしています。2007年夏期のサンゴ白化の様子を克明に記録し、東京の立教大学で調査結果を発表してきました。

※このコーナーに掲載する写真を募集しています。簡単なコメントと写真を裏面のお問い合わせ先までお送りください。皆さんのすばらしい写真をお待ちしております。